



日本赤十字社診療放射線技師会 第1回施設代表者会議 開催報告

日本赤十字社診療放射線技師会 副会長
武蔵野赤十字病院
荒井 一正

2019年1月12日（土）13日（日）の2日間、日本赤十字社本社の201会議室で記念すべき第1回の施設代表者会議が安彦会長の開会宣言のもと開催された。73施設74名の参加があり赤十字グループの約80%の責任者が参集する会議となった。

1日目

本部長講演

医療事業推進本部の富田本部長に赤十字の理念と使命、災害支援、赤十字グループの強み、経営状況についてわかりやすくご講演していただいた。印象に強く感じたのは、赤十字グループの強み、経営状況の改善であった。日本最大のグループ病院である赤十字病院の経営状況の改善が今求められている。

教育講演

石巻赤十字病院の千葉先生から医療情報部の発足と活動についてのご講演であった。石巻赤十字では、医療情報部が医療情報資源を活用し医療安全や業務改善にうまく活用している実践報告であった。職場管理者が分かりやすくなるように改善項目を数値に整理できているのが印象に残った。

災害講演

北見赤十字病院の相澤先生から北海道胆振地方中東部について報告をいただいた。この地震の大きな特徴は、道内の発電所の機能が停止し道内の離島などを除くほぼ全域約295万戸で停電したことである。自家発電で病院機能を維持しないといけないのだが、現実はいま機能していない点もあり病院の災害対応を考えさせられる内容であった。

事業継続計画（**BCP : Business Continuity Plan**）について、名古屋第二の駒井災害担当理事からご講演いただいた。病院に求められる事業継続計画は各施設で検討されていると思われる。放射線部においても優先して継続・復旧すべき中核事業が何かを決めて院内で職員周知されてそれに備える必要がある。

意見交換会 グループワーク

労務管理、教育、接遇、指導者育成について、9つグループに分かれて意見交換が行われた。病院機能や経営状況の違いで、施設ごとの対策の違いが明らかになった。今後も赤十字間で情報共有して発展いくことが大切である。

2日目

本社講演 共同購入

本社の病院支援部の尾崎部長と深谷係長から大型医療機器の共同購入についてご講演いただいた。グループ病院のスケールメリットを活かし、できるだけ安く最適な医療機器を購入できるように診療放射線技師も協力する必要がある。共同購入に関しては課題も多くあり、各施設との協議や調整必要で、保守契約に関しても同様に考える必要がある。

病床規模別意見交換

5つの病床規模別の班ごとに分かれて課題検討が行われた。私の担当班では、赤十字間の人事交流のテーマとなった。現状でも複数の赤十字病院で交流がすでにあった事実が話題となった。技能のスキルアップや災害支援など目的を明瞭した形での交流は施設間で行われるべきとの意見が多かった。今後、実施展開されることを期待したい。

総括

医師、看護師、事務部は、今まで同様な全国施設代表者会議は行われていた。我々は一歩おくれた状態で今回はじめてスタートをきった。各施設や本社の協力も得て、80%の責任者が集まったのは、感慨無量である。事前アンケート調査でも各施設の熱い思いが伝わるような意見も多かった。意見交換では、各施設の思いが大きく発散され話が尽きない状態であった。今回の会議を通じて横断的に各施設の交流が芽生える会となれば幸いである。執行部としても成果が実る会議となるように発展を望みたい。今後とも日本赤十字社診療放射線技師会の活動に皆様からのご支援、ご指導いただきます様によりしくお願い申し上げます。

